

「税金で支える未来」

久松 和音

遠くから鳴り響いていた救急車のサイレン音が家の前でびたりと止んだ。嫌な予感がする。私はその時妹が急病で救急搬送されたことを知らなかったが、後にそれを聞いて啞然とした。

今思い返せば、あの時迅速に救急車を呼ぶことができたのは日本の税制のおかげだと言っても過言ではない。日本では国民の三大義務の一つとして「納税の義務」がある。公共サービスを運営するための費用は国民が納める税金によって賄われているため救急車を無料で利用できたのだ。もし税金がなかったら救急車が一回出勤するのにおよそ四万五千円もかかるそう。一刻を争う状況でそんな高額を支払わなくてはならないと思うと救急車を呼ぶことを少しためらってしまうかもしれない。さらに国内の出動件数は二〇二一年のデータだと六十九万三六六三件に上る。このデータは年々増加傾向にあることから適正利用されていないのではないかという課題が生じ、有料化するべきだという意見もあるようだ。しかし、私はこの意見に反対する。有料化すると金銭的に余裕がない人が救急車を呼ぶことを躊躇して手遅れになり、救える命も救えなくなってしまうのではないかと考えたからだ。そう考えると税金は、私たち誰もが平等に、安心して暮らしていけるような公共サービスを運営し、社会を支えていくために必要不可欠な会費のようなものだと言える。誰かが困った時に他の誰かが支え合う、目には見えない助け合いの輪があることを確かに感じ取った。

この出来事をきっかけに税金は他にどんな場面で使われているのかを調べてみた。私が在住している区は住民税が比較的高いと言われているが、その分学校では電子黒板やタブレットなどの施設や設備が充実していたり、身の回りの環境が整備されたりと、私たちが快適に生活できるようにしっかりと還元されていることを実感した。普段何も考えずに当たり前にあるのだと思っていたもののほとんどが税金によって支えられていることが分かり、税金の偉大さを知ることができた。

税金の使い道を決めるのは選挙で当選した国会議員。すなわち選挙権のある全ての人に税金の使い道を決める権利があるということだ。少子高齢化が急速に進行している日本では、現在の社会保障制度のままだと生活の維持が困難で、二〇四〇年問題に直面すると言われている。社会保障の費用が増加する一方、その費用を負担する働き手が減少していく。

この問題は決して個人で解決できるものではない。時代の変化と共に税金の仕組みも変化していくだろう。私にはあと三年で選挙権が与えられる。税金を正しく理解し、次世代の未来がより豊かで幸せになるように考えて投票したい。そして助け合いの精神を忘れずに、社会の一員として暮らしを支える立派な納税者になりたい。